

東京都日野市東平山 3-1-19

社会福祉法人 大家族

特別養護老人ホーム シンフォニア

～ごあいさつ～

風薫る季節になりました

一斉に咲き誇ったソメイヨシノの桜の花に代わった新緑の木々の上を、鯉のぼりの鯉が、風に乗って、楽しそうに泳いでいます。お変わりなくお過ごしのことと存じます。

ひよこハウスの子どもたちは、専用の園バスが走るようになって、多摩平にある小さな「ムジカこどもアート」ホール（コンサートホール・リトミック・アトリエ・屋上プール）でバイオリンを習ったり、ひよこハウス園庭・農園（特養シンフォニア前）で芝生の上を走り回って遊んだり、花や野菜を育てています。

気候も良くなり、これからは、この子どもたちと、利用者の皆さんが交流する機会が増えると思いますが、その節は、人生の大先輩として、思いを伝えたり、励ましたりし、一方で彼らからは元気をもらってください。

ところで、熊本では地震が 1000 回を超えて続き、止みそうにありません。現代の生活は、お金さえ持っていれば、隣近所の付き合いはなくても生きていけますが、このような災害時には、それだけではどうにもなりません。先の見えない状態に、被災住民は、狭い体育館、車の中ですごし、体調を壊す人が増え続けています。

こんな時、地震が続く地域に、外からボランティアなどがやっとの思いで入るだけでなく、日本全国各地の空き家を積極的に活用して、それぞれの自治体が責任を持ち、国の予算で地震が治まるまで（場合によってはその後も）、移住する発想はどうでしょう。つまり、被災地住民のいつ終わるともわからない悲惨な生活をテレビで報道し続けるよりも、地震国日本で、これからも起こりうる災害に対し、その復旧方法をもっとダイナミックに考え、作っていくことではないでしょうか。家族力が弱まっている時代に、災害復旧対策の一つとして、必要な時は、災害地の人が、原発被災福島のように遠くの他地域にも移動し、新しい地域集団ができれば、介護施設入所と同じように、新しい集団、人間関係づくりにもなるでしょう。あまり効果的でもないオスプレイを飛ばす「突飛さ」より、もっと住民本位な抜本的アイデアが提起されるべき時代のように思うのですが・・・。

今月も利用者の皆さんに少しでも楽しい生活をしていただこうと、ご家族の皆さんのご協力をいただきながら、職員一同で努力致しますので、よろしくご協力のほど、お願い申し上げます。

社会福祉法人 大家族

理事長 佐々木 榮一

～イベント紹介～



5月8日(日)

うたごえ喫茶が開催されました。
さわやかな五月晴れのなか、ギターやハーモニカの演奏とともに、皆様の元気な歌声が聞かれ、とても楽しいひと時をすごしました。



5月13日(金)

ひよこハウス豊田の園児さんたちと一緒にあじさい作りをしました。園児さんからの歌のプレゼントもあり、皆様も笑顔にあふれ、あじさい作りを楽しまれました。

